



首都圏西部スマートQOL (Quality of Life) 技術開発地域

首都圏西部地域の産業特性を活かした「産学官金の知の統合」によるSQOL技術の創出・事業化

総合調整機関

一般社団法人 首都圏産業活性化協会
〒192-0083
東京都八王子市旭町9番1号
八王子スクエアビル11階
TEL042-631-1140

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産・(社)首都圏産業活性化協会
学・**首都大学東京**、**電気通信大学**、東京農工大学、**埼玉大学**、青山学院大学、**芝浦工業大学**、**東洋大学**
官・埼玉県、東京都、さいたま市、相模原市、東京都立産業技術研究センター
金・西武信用金庫



プロジェクトディレクター
岡崎 英人

略歴：(財)相模原市産業振興財団事務局長を経て、平成13年より(社)首都圏産業活性化協会事務局長。平成25年、専務理事就任。

首都圏西部地域が、世界有数のライフイノベーション・グリーンイノベーションの新産業創出拠点となることを目標に、多数の優秀な中小企業、理工系大学が集積する特性を活かしつつ、産学官金の人的ネットワークを効果的・機動的に活用し、産学・産産連携による新事業創出活動を支援している。

地域イノベーション戦略

首都圏西部地域に集積するイノベーション支援型産業、先端技術を牽引する大学・研究機関および関係機関による「産学官金の知の統合」を行い、グリーンイノベーションおよびライフイノベーションを促進する。個々の状況、多様な個別ニーズにも適合して、暮らしの質を向上させるSQOL技術を次々に創出することにより、都市課題の解決と持続的に発展可能な活力ある地域づくりに貢献する。またその成果をグローバル市場へ発信し、SQOL技術の普及・拡大を推進する。

事業の内容

1. 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積 (実施機関：首都大学東京、電気通信大学)

先進先端技術に知見があり戦略技術を生み出すために最適な研究者を招聘して研究を実施し、産学官金連携によるSQOL技術の創出をめざす。招へいする海外の研究者と共同で研究を進め、多国籍対応可能なシステム構築を行う。

2. 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施 (実施機関：電気通信大学、埼玉大学、芝浦工業大学)

電気通信大学：ICT及びセンサー技術の人材育成プログラムの開発・実施

埼玉大学：創造性豊かな独創的次世代自動車関連技術者/研究者を養成するための育成プログラムの開発・実施

芝浦工業大学：「分野横断的な技術の組み合わせ」に対応できる技術人材の育成プログラムの開発・実施

3. 大学等の知のネットワークの構築 (実施機関：一般社団法人 首都圏産業活性化協会)

総合調整機関として本プログラムの推進管理や新規事業企画、各機関との連絡調整等を行う。プロジェクト・ディレクターと5名の地域連携コーディネータを配置し、本地域での「知のネットワークの構築」、連携案件のマッチングを促進し、重点プロジェクト、SQOL技術の創出に取り組む。

4. 地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共用化 (実施機関：埼玉大学、東洋大学)

地域の大学の研究設備・機器等を活用して、SQOL技術の開発を支援する。

埼玉大学：

アンビエントモビリティインターフェース研究開発拠点
(次世代自動車関連のSQOL技術開発支援)

東洋大学：

バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター

《重点プロジェクトの推進》

複数大学・複数企業・複数地域が連携して取り組むプロジェクト

◆重点プロジェクトから、個別技術課題が明確化され、SQOL技術が生まれる。

◆SQOL技術の創造から、重点プロジェクトを補完し、重点プロジェクトを実現する。

